



ち★ネット！

「顔の見える地域連携」を目指した多職種での情報交換と学びの会
それが、地域医療ネットワークの会です！

2022年2月21日 第40回 地域医療ネットワークの会 透析の「見合わせ」を選択した患者と家族を地域で支える

慢性腎臓病患者が年々増加していく中で、透析を選択しない患者も年々増えています。今回透析を希望せずに自宅での療養を選択した事例を基に、透析「見合わせ」患者をどのようにして地域で支えていくべきか、事例を通して共有していきました。今回はZOOM開催し、22施設75名の参加がありました。

座長 地域医療ネットワークの会世話人

聖マリアンナ医科大学病院

永田 ノリ子

渡辺クリニック

渡邊 寛之

事例紹介 透析開始前に急激に認知および身体機能が低下した患者を経験して

聖マリアンナ医科大学病院 腎臓・高血圧内科 村澤 昌

退院後の支援

訪問看護ステーション長沢ひまわり

水野 まゆみ

講演：透析「見合わせ」を希望する患者への保存的腎臓療法

(conservative kidney management ; CKM) について

聖マリアンナ医科大学病院 腎臓・高血圧内科 櫻田 勉

村澤医師より、認知機能、身体機能の低下により透析「見合わせ」を選択した事例について紹介がありました。肺炎を併発し終末期を迎えた時「最期は家で迎えたい。でも、家族に迷惑はかけたくないもう先が長くないことは理解しています」と本人が表出され、御家族の協力を得られたため、自宅退院へ向け相談を開始しました。自宅療養に向けて倫理カンファレンスを行い、透析「見合わせ」を選択することとなりました。

つぎに、退院後の療養生活について、訪問看護ステーション長沢ひまわり水野さんよりお話を頂きました。自宅療養する中で、透析再開を希望されたり、病状が進行した時の対応で悩まれる家族の気持ちの揺らぎに訪問看護師が寄り添い、最期までご自宅で過ごすことができたとのことでした。



櫻田医師からは、透析見合わせを行うまでのプロセス、保存的腎臓療法や腎臓緩和治療などについての話がありました。

意見交換では、認知機能の評価や頑なに血液透析を拒否している患者対応に苦慮しているということでした。

アンケートでは、『透析は一度やったらやめられず、最期は病院でとなるケースが多いように思います。「見合わせ」ということを、提案できることが分かり良かったです。』



利用者さんやご家族の思いを受け止めるということ自体は、どんな疾患や状態でも同じですが、在宅で最期まで、という選択も、透析患者さんにもあるということを知って、今後の訪問看護に生かしていきたいと思います。』とのご意見を頂きました。今後増加していくであろう透析「見合わせ」を選択される方々も、そうでない方も、安心して療養生活を送ることができるように、多職種で協働して支援をしていきたいと思います。そして、透析患者の高齢化とともに、今後、患者・家族にとって透析「見合わせ」も選択肢の一つになることで、最期まで”自分らしく生きる”ことが出来るのではないかと考えながら、皆様の発表を聴かせて頂いていました。